

ムハンマドの奇跡（パート2/3）

説明：月の断裂と、預言者ムハンマドによるエルサレムへの旅、そして昇天。

より IslamReligion.com

掲載日時 31 Jan 2011 - 編集日時 31 Jan 2011

カテゴリ：記事 > [イスラームの真実性を示す数々の証拠と奇跡](#) > [ムハンマドの預言者性に関する証拠](#)

カテゴリ：記事 > [預言者ムハンマド](#) > [彼の預言者性の証拠](#)

月の断裂

神により預言者の手を通して行なわれた奇跡の一つとして、マッカの民がムハンマドの主張が真実であるかどうかを試すため、奇跡を起こすよう要求した時のものがあります。神は月を真っ二つに割った後、それを再び元通りにしたのです。クルアーンはこの出来事について記録しています：

“時は近づき、月は真っ二つに裂けた。”（クルアーン54：1）

預言者ムハンマドは毎週金曜日の合同礼拝と、年に二回のイード礼拝でこれらの節々を朗読しました。[1](#)

もしもその出来事が起こらなかったのであれば、ムスリムたち自身も自分たちの宗教に対して疑問を抱いたでしょうし、多くは棄教したでしょう。またマッカの民はこう言ったことでしょう。「あなた方の預言者は嘘つきである。月は決して裂けなかったし、我々は実際にそれを目にしなかったのだ。」しかし、実際には信仰者たちの信仰心は増強され、マッカの民による唯一の主張は、「これは相変わらずの魔術だ。」というものだったのです。

“時は近づき、月は真っ二つに裂けた。彼らはたとえ印（奇跡）を見ても、背き去って、「これは相変わらずの魔術だ。」と言うであろう。彼らは（訓戒を）虚偽であると、自分の欲望に従ってきた。”（クルアーン54：1～3）

月の断裂はその目撃者による証言が、信頼される学者たちによる、途切れることのない多数の伝承経路（ハディース ムタワーティル）によって伝えられており、それが虚偽であるということは不可能なのです。[2](#)

懐疑主義者は言うでしょう。「本当に月が断裂したという歴史的な証拠はあるのか。このような驚異的な出来事は、世界中の人々によって目撃され、記録されているはずだろう。」と。

この質問には二通りの答えがあります。

第一の答えとして、世界中の人々が同時にそれを目撃することは、各地によって日中であったり、深夜であったり、早朝であったりするため、可能ではありません。以下の表ではマッカ時間の夜9時が、世界各地では何時であることを示しています：

地域	時刻
マッカ	9:00 pm

インド	11:30 pm
パース	2:00 am
レイキャビク	6:00 pm
ワシントン D.C.	2:00 pm
リオ	3:00 pm
デジャネイロ	
東京	3:00 am
北京	2:00 am

また、近隣地の人々が大勢で全く同時刻に月を目撃することは容易いことではありません。そもそも、そうした理由もないのですから。たとえ誰かが目撃したとしても、それによって人々がその目撃者を信じ、そういった事実を記録するとは限りません。当時の多くの文明は、自分たちの歴史を書面によって記録するというをしなかったのです。

また第二の答えとしては、当時のインドの王による、独立した、かつ驚くべき歴史的補強証拠が存在します。

ケララはインドの州の一つです。ケララ州はインド亜大陸の南西部、マラバル海峽沿いに伸びる全長580キロの州です。[3](#)

マラバルのチャクラワティ ファルマス王はチェラ王朝を治めていました。彼は月の断裂を目撃したことが記録されています。この出来事は写本に記録されており、現在もロンドンの英国インド省図書館に保存されています（参照番号：Arabic, 2807, 152-173）[4](#)

。ムスリム商人の集団による中国への旅路の途中でマラバルに留まった際、彼らはアラブ人預言者の出現と、月の断裂という奇跡について王に話しました。衝撃を受けた王は、自分自身もそれを目撃したことを明かし、息子に摂政を務めさせ、預言者に会いに行くべく、アラビア半島へと旅立ったのです。王は預言者に会い、信仰宣言をし、信仰における基本を学びながらも帰路において亡くなり、イエメンの港町であるザファール[5](#)に埋葬されました。

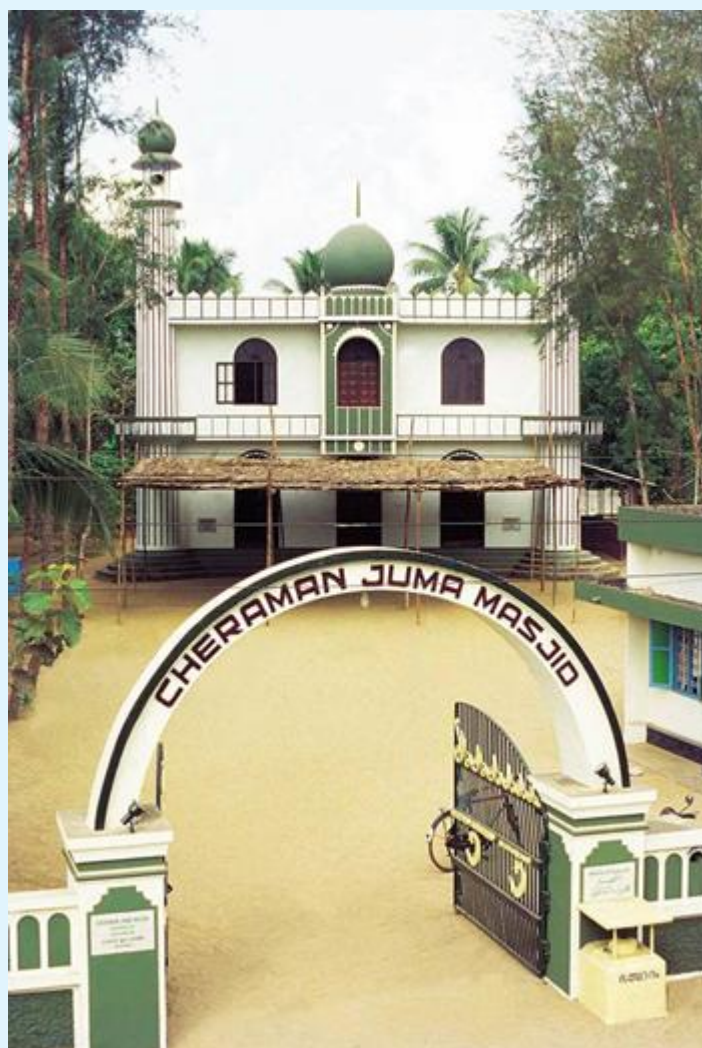
派遣団はムスリムであるマーリク ブン ディナールによって先導され、チェラの首都コドゥンガロールにまで続き、西暦629年に、現存するインド最古のモスクを建てたのです。



A pre-renovation picture of the Cheraman Juma Masjid, India 's oldest mosque dating back to 629 CE. Image

改修前のチェラマン ジュマ マスジド。西暦629年にまで遡る、インド最古のモスクです。写真提供：www.islamicvoice.com

彼によるイスラーム改宗の知らせはケララに届き、人々もイスラームへと改宗しました。ケララ州カリカットのラクシャディープ諸島とモプラスの人々は、当時改宗した人々の末裔なのです。



改修後のチャラマン ジュマ マスジド。インド初の改宗ムスリムであるチェラマン ペルマル チャクラワティ ファルマスにちなんで命名されています。写真提供：www.indianholiday.com

インドからの目撃、及びインドの王と預言者ムハンマドとの対面は、ムスリム側の史料からも伝えられています。著名なムスリム歴史家であるイブン カシールは、インド各地で月の断裂が目撃されたことに言及しています。[6](#)
またハディースの諸本では、インドの王の到来と、彼と預言者との対面が記録されています。預言者ムハンマドの教友アブー サイド アル=フドリーは述べています：

“インドの王は預言者に生姜の瓶を贈呈しました。教友たちはその断片を食べ、私も一片を口にしました。”[7](#)

従って、王は預言者に一度でも会ったことのある者、そしてムスリムとして死んだ者に付けられる称号である「教友」と見なされます。そして彼の名は、預言者の教友の1人として、膨大な史料の中に記録されているのです。8

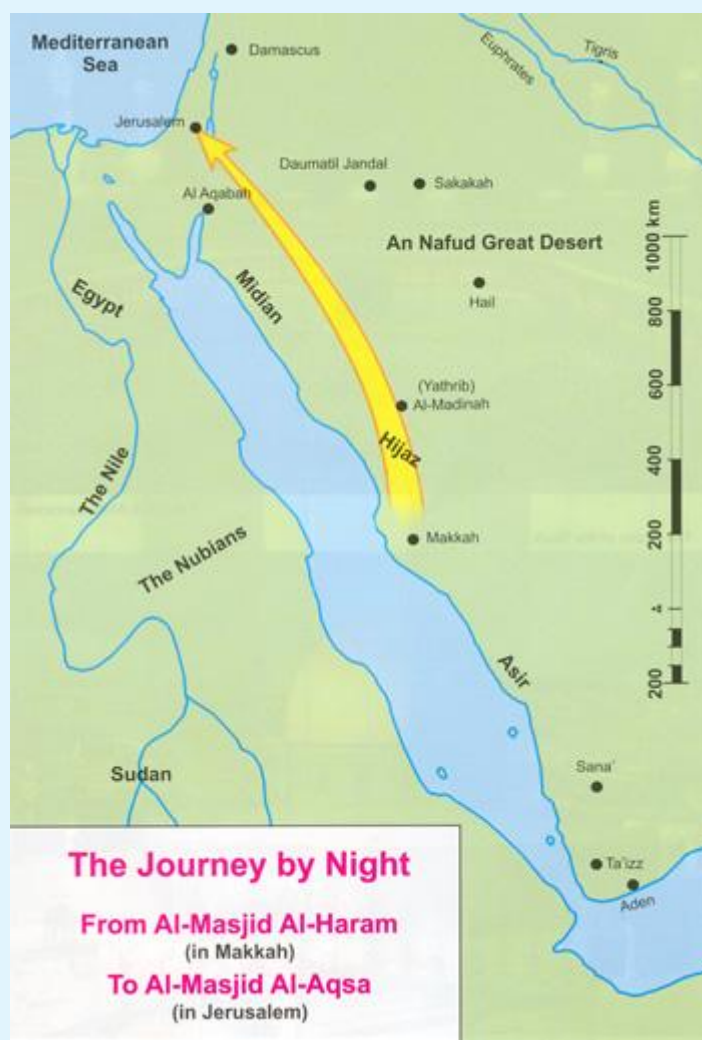
夜の旅と昇天

マッカからマディーナへの移住の数ヶ月前、神はムハンマドを一夜にしてマッカのハラーム モスクからエルサレムのアル=アクサー モスクへとお連れになりました。それは1,230キロ、つまり通常のキャラバンで一月かかる距離でした。彼はエルサレムから諸天へと昇天し、物理的宇宙の境界を超えて神に謁見し、偉大なるみしるし（

アル=アーヤ アル=クブラー

）を見たのです。彼の主張は二つの方法により真実であると確証されました。まず、「預言者が戻って来る際に追い越したキャラバンについて、それがどこにあったか、そしてマッカのどこに到着するかを説明し、それらは彼が言った通りの場所に到着しました。」9

次に、彼はそれ以前に一度もエルサレムに行ったことがありませんでしたが、懐疑者たちに対し、アル=アクサー モスクがどのような場所であったかを正確に説明したのです。



この神秘的な旅はクルアーンにおいても記述されています：

“かれに栄光あれ。そのしもべを、（マッカの）聖なるマスジドから、われが周囲を祝福した至遠の（エルサレムの）マスジドに、夜間、旅をさせた。わが種々の印を彼（ムハンマド）に示すためである。本当にかれこそは全聴にして全視であられる。”（クルアーン17：1）

“彼の見たことについて、あなたがたは彼と論争するのか。本当に彼（ムハンマド）は、再度の降下においても、かれ（ジブリール）を見たのである。（誰も越せない）涯にある、スイドラ木の傍で。そのそばに終の住まいの楽園がある。覆うものがスイドラ木をこんもりと覆う時。（かれの）視線は吸い寄せられ、また（不躰に）度を過ぎることもない。かれは確かに、主の最大の印を見たのである。”（クルアーン53：12～18）

またこの出来事における目撃証言は、信頼の置ける学者たちによる途切れることのない連続的な伝承経路を通しても同様に確認されています（ハディース ムタワーティル）。[10](#)



ムハンマドが昇天したとされる場所であるアル=アクサー モスクの入り口。写真提供：Thekra A. Sabri

Endnotes:

[1](#)サヒーフ ムスリム。

[2](#)Al-Kattani 著 ‘Nadhm al-Mutanathira min al-Hadith al-Mutawatir’ 2 1 5 頁参照。

[3](#) “Kerala.” Encyclopædia Britannica from Encyclopædia Britannica Premium Service. (<http://www.britannica.com/eb/article-9111226>)

4 ムハンマド ハミードッラー著 “ Muhammad Rasulullah ”

において引用されています：「インド南西部の沿岸マラバルの非常に古い伝統では、王の一人チャクラワティ ファルマスが、マッカの聖預言者による月の断裂という名高い奇跡を観察し、調査の結果、アラビア半島における預言者の到来が予言されていたことについて学び、自らの息子を摂政として任命し、預言者に会う旅に出ました。彼は預言者の手によってイスラームに改宗し、預言者の指示によって帰国への帰路、イエメンの港町ザファールにおいて死にました。そこでは過去に『インドの王』の墓が何世紀にも渡り訪れられていました。」

5

「ザファール：聖書におけるセファル、古典文学のサッフアル、またはサファルは、南イエメンに位置し、ヤリムの南西にある古代アラビアの都市です。そこは紀元前およそ115年から紀元525年まで南アラビアを支配していた部族であるヒムヤル人の首都でした。ペルシャ人による征服（西暦575年）までは、ザファールは南アラビアにおいて最も重要かつ有名な町でした。この事実はアラブ人地理学者 歴史学者だけでなく、ギリシャ人やローマ人の著者らによっても証言されています。ヒムヤル王朝が滅亡し、その後イスラームが勃興がすると、ザファールは徐々に衰退してきました。」 “ザファール”：ブリタニカ百科事典プレミアム版より (<http://www.britannica.com/eb/article-9078191>)

6 イブン カシール「アル=ビダーヤ ワン=ニハーヤ」三巻、130頁。

7

ハーキム「ムスタドラク」四巻、150頁における報告。ハーキムはこう述べています：「私は預言者が生姜を食べたという報告は、どこにおいても全く記憶していない。」

8

イブン ハジャル「アル=イサーバ」三巻、279頁、及びイマーム アッ=ザハビーによる「リサーン アル=ミーザーン」三巻、10頁で、彼の名は「サルバナク」というアラブ人に知られた通り名で記されています。

9 マーティン リングス著 ‘ Muhammad: His Life Based on the Earliest Sources ’ 103頁。

10

預言者の45人の教友たちが彼による夜の旅と昇天に関して伝承しています。ハディース大学者であるアッ=スユーティー著 ‘ Azhar al-Mutanathira fi al-Ahadith al-Mutawatira ’ 263頁と、アル=カッタニー著 ‘ Azhar al-Mutanathira fi al-Ahadith al-Mutawatira ’ の207頁参照。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/151>

Copyright © 2006-2011 www.IslamReligion.com. All rights reserved.